

## 地域の宝「里山」を 未来につなぐ

地域の皆さんとお話をしていて感じることは、「里山を何とかして守っていききたい」という熱い想いを持った方がたくさんいるということ。そういった想いを実現すべく、協力隊の強み「ヨソモノ・ワカモノ」の視点から里山整備を捉え、「里山を大事にしたい」「大山に住んで良かった」と思えるような地域への愛着を生み出したいと考えています。

### 里山保全 自分が今できること

この春から地域おこし協力隊に着任しました、小牧満也と申します。「半学半業」として、週の半分は「里山整備」をテーマに大山地区で活動し、残りの半分は京都府立大学大学院で農業経営学を専攻しています。

私自身、将来は行政職員を志望することにも、生涯を通じて里山の保全に取り組みたいと考えていました。大学生の時期には、生まれ育った川西市で森林ボランティアとして活動していましたが、篠山市の抱える課題

と同様に、高齢化や担い手不足といった課題に直面していました。古くから住民の生活に密接に関わってきた里山は、地域住民の手で守り、地域活性化に寄与すべきだと考え、その一助となればと、協力隊に志望しました。

この地域おこし協力隊という制度は、私にとって非常に恵まれた制度で、特に、篠山市地域おこし協力隊はコーディネーターや先輩隊員の存在など、常に自分の活動を相談できる環境にあります。また担当地区でも、私の活動を理解し、応援してくださる大山郷づくり協議会や大山振興会をはじめとする地域の皆さんと一緒にしながら、自分の考える理

### これからの活動

が主体となって里山を保全する仕組みをつくり、大山の地域活性化につなげていくことが目標です。

初年度の具体的な活動としては、金山の整備を通じて、地域の皆さんを主体とした里山整備を進めています。金山の頂上付近にある寺跡の整備や間伐材を用いたウッドキャンドルのイベントを実施し、里山への興味を持ってもらいたいと考えています。

さらに、振興会が所有する木工製材所を活用し、木のおもちゃづくりや大山小学校での授業における箸づくり体験など、地域材を用いて大山に利益を生むための仕組みづくりにも挑戦しています。

7月8・9日、篠山チルドレンズミュージアムで行われた「木育キャラバン」では、大山の皆さんと一緒に、地域材を使って、篠山に生息する貴重な魚をかたどった木のおもちゃをつくり、魚釣りゲームを実施しました。このように、今まで大山で取り組まれたことがないような、新しい視点からの地域材の活用方法にも挑戦することで、里山の魅力を



地域おこし協力隊  
(大山地区担当)  
小牧 満也さん

ライター

感じてもらうきっかけとなりました。大山地区では、江戸時代

想の地域像を実現すべく、活動しています。

### なぜいま里山か

里山は私にとって居心地の良い場所であり、社会貢献の場でもあります。幼い頃からボイスカウトをはじめ、休日の遊び場や受験勉強の憩いの場として、自然は常に身近な存在でした。人の手が入り続けなければ廃れてしまう里山を守っていききたい、恩返しをしたいといった思いが強くなります。

その里山をはじめとする日本の多くの山林は、人の手が入らなくなり、現在、飽和状態となっています。戦後、復興のために大量の資材が必要

の天保の飢きんの際、貧困から村を立て直すために村を挙げて植林事業を行い、以来「趣法山」として語り継がれています。特に山と密接に関わってきた地域だからこそ、地域の資産である里山を地域で守り、先人の想いを受け継ぐべく、活動にまい進していきます。



(写真上) 里山の荒廃が進むとさまざまな問題が。立ち枯れの倒木が壊してしまった獣害柵  
(写真左) 振興会の伊勢さんと神戸大学生が金山登山。地域おこし協力隊の活動を学ぶ大学の実習

### 木育キャラバン



魚釣りゲームのブースを出店しました。たくさん子どもたちが遊びにきてくれました



一番重たいブラックバスはなかなか釣れません



魚釣りゲームのルール説明ボード

### 魚釣りゲームに使った竿や木のおもちゃは地域の皆さんの手作り



竿を作るため、山に入って手頃な笹を見つけて、伐採しました



11種類の魚の型を地域の方が一つ一つ、イトノコを使って切り出します。使用しているのは、地域産の木材です。